

学校教育目標	よく考える子（重点） 思いやりのある子 たくましい子			目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	「学校・家庭・地域が共に補い合い、三位一体で児童を共育する南小岩小」⇒【教育環境の創造】 「すべての児童が一つでも多くの自己実現を果たそうとする南小岩小」⇒【学力向上】 【心力向上】 【体力向上】 【学力向上：授業で勝負する教師】 【心力向上：児童の心の声を待つ・聴く・受け止める教師】 【体力向上：心身共に健康な教師】
前年度までの本校の現状	成果	児童：校内研究(特別の教科道徳)と柱に挨拶などを通して相手を慮る心を育み心力向上を目指すことができた。 教師：校庭と校舎の両方が完成し、教育活動が円滑に推進できた。			課題 児童：心力向上を育むことを通して、児童の自己肯定感を高め、学力や体力を区や都の平均以上にすることを旨とする。 教師：教職員が一丸となり、課題に対して組織で対応できる力をより一層高めていくことを目指す。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○学力の向上 授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学力調査に基づく、指導の充実	・毎学期の管理職の授業観察やOJTによる授業力向上の授業改善を実施	A	A	A	計画的に実施されている。校内研究「道徳」でも効果を上げている。	B	タブレットの活用とノートの併用は上手に行っている。	A	若手教員のニーズを聞きながら研修内容を工夫することができた。	A	タブレットを活用している授業を見たが、先生方が工夫していた。	○学習の基本となる読み取る力の向上を行うために、NIE教育を充実させる。読書科や国語科、朝の時間を活用して全校で取り組む。また、系統的に取り組めるようにする。 ○校内研究・OJT・指導教諭の公開授業・都区の研修会等を活用し、積極的に指導力向上を行う。参加した研修会などの情報を全体場で共有できるようタブレットを活用する。 ○調べるコンクール等に年間1回、学年で取り組めるよう、年間計画に組み込む。
		・ミライシード内「ドリルパーク」を活用した基礎・基本の徹底	・ドリルパークの定着率が70%以上	C	B	C	鉛筆を使って書くことを大切に重点を置いた。	C		B	子供たちが使い方に慣れてきている。			
		・タブレット端末を活用した協働的な学びの実現	・タブレット端末を活用した授業を1日に1時間以上実施	B	A	B	各学年、各教科で工夫を凝らして活用している。	B		A	教員間で共有を行いスキル向上を行っている。			
	○読書科の更なる充実	・読書科における、探究的な学習の実施	・探究的な学習を全学年で年1回以上実施	B	A	B	高学年は実施している。	B	探究的な学びを充実を期待している。	A	全学年で取り組んでいるが更に検討していく。		調べる学習コンクールで頑張っているようなので、引き続き継続していったほしい。新聞なども活用してはどうか。	
体力向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・全校運動遊びの充実	・全校運動遊びの内容を充実させ、週1回実施。	A	A	A	委員会を中心に遊びを行っている。	A	毎日の給食後に、歯磨きタイムで歌が流れているのがよい。	A	よく外で遊んでいる。	A	校庭が使えるようになってので、沢山体を動かしてほしい。	○なわとびウィークでの取り組みの充実を図る。 ○早寝・早起き・朝ごはんを家庭と共に推進する。
		・体育授業の充実	・指導内容の充実と体力テストで全項目を昨年度の数値をより向上。	A	A	A	昨年度から取り組んできたことが結果として現れた。	A		A	体育部・体育的行事委員会の教員が情報提供をして充実している。			
		・食育・歯の健康	・食後の歯磨きを150回以上実施。	B	A	B	短時間になってしまっている。	A		A	歯磨きの歌を流すことで取り組み児童が増えた。			
共生社会の実現に向けた教育の推進	○学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級経営・授業の創造	・特別支援学級や特別支援教室の児童に加え、特別な配慮を必要とする児童の個別指導計画の作成を100%	A	A	A	特別支援コーディネーターと特別支援専門員が連携し、教員への啓発を進めている。	A	みつばち学級との交流は、本校の特徴なので、よりよいものをつくっていったほしい。	A	確実に実施できている。	A	エンカレッジルームの環境も人も整ったのは、子供にとって安心材料の一つとなる。もっと保護者に広めていったらどうか。	○エンカレッジルームの環境整備が整ったので、児童・保護者への周知を行い、教室へ入りにくい場合でも、学校には居場所があるという安心感を伝えていく。 ○通常学級とみつばち学級との交流を継続していき、相互理解を図ることや仲間意識をもてるようにしていく。
	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・学校だより等でエンカレッジルームを紹介	C	B	B	部屋の整備も含めて充実させていく。	B		B	エンカレッジサポーターの配置も決まった。			
	○特別支援学級との交流、副籍交流及び共同学習の実施・充実	・みつばち学級と通常学級の積極的な交流	・みつばち学級児童との授業や給食交流を月1回以上実施	B	A	A	みつばち学級の行事へ通常学級児童を招待して交流ができている。	A		A	交流がさらに深まった学年もあった。			
不登校・充い実 いじめ対応の	○不登校対策の実施・充実	・学校の居場所づくり、絆づくりに向けた取組及び、いじめ対策委員会を設置し、いじめの兆候があった場合は学校組織で対応できるようにする	・保護者・地域アンケートで、思いやりの心の育成についての肯定的な回答70%以上	-	A	-	-	-	一人一人の心を大切にしたい教育活動の継続を望んでいる。	A	肯定的に回答している家庭は85%となっている。	A	未然防止に尽力していったほしい。	○未然防止を行う為にも、教職員一丸となって児童の変容に対するアンテナを高くし、互いに情報共有を行い、組織的に対応をする。
	○教育相談の強化	・SC及びSSW等連携したケース会議の実施	・SC及びSSWとの連携を週1回以上実施及びSCと5年生の全員面接100%の実施	A	A	A	計画的に実施している。	A		A	連携が出来ている。			
	○「L-gate」の実施の活用	・毎日「L-gate」を実施し児童の心の変容を把握	・毎週1回の生活指導夕会で情報共有	A	A	A	毎週欠かさず実施し、情報共有ができています。	A		A	金曜日から火曜日に変更し、週内の対応ができるようにした。			
地域社会に開かれた学校の実現	○ホームページ更新、学校公開の実施・充実	・保護者・地域向けのお知らせや学校ホームページの充実	・週1回以上更新	B	B	B	目の前の児童対応で忙しい中ではあるが、可能な限り発信している。	B	ホームページは外部の方に教育活動を広める役割を担っているが、先生方への過度な負担にならない程度に発信をしていったほしい。	B	できる限りやを行っているが頻繁には難しい。	A	次年度はコミュニティ・スクールとしての活動を期待している。	○コミュニティ・スクールとして地域と共に歩む学校を目指す。
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・フォームズやテトルを活用した学校評価を計画的、保護者に周知	・保護者等アンケートで、学校の教育活動への理解についての肯定的な回答80%以上	-	A	-	-	-		A	多くの保護者が肯定的に捉え、理解をしている。			
教育の特色ある展開	○心力向上 心豊かな児童の育成	・全教育活動を通した道徳教育の推進	・全学級年間35時間以上の道徳授業	A	A	-	各学級で計画的に進めている。	-	心力向上は大切なので、引き続き継続していったほしい。	A	板書に回数を書くようにしている。	A	あいさつができる児童が増えたように感じる。心力向上の成果だろう。	○心を込めた挨拶への取り組みを継続していく。
		・家庭と連携した道徳教育の実践	・全体保護者会、道徳授業地区公開講座、学校だより巻頭言等で保護者に協力依頼	A	A	A	校長が多くの発信を行っている。	-		A	道徳授業地区公開講座の講師を校長が行った。			
	○心力向上 心をこめた挨拶の励行	・全教職員で挨拶の励行、校長は200日以上正門で出迎え	・校長は、年200日以上、正門で「心をこめた挨拶」の率先垂範	A	A	A	200日目指して順調に行っている。	-		A	あいさつ週間もあり児童の主体的な姿が見られた。			
	○働き方改革の推進	・週案を毎週金曜日の提出とする	・週末はゆっくりと休めるようにする	A	A	A	4月より実施している。	A		A	土日の出勤は減った。			